

自己評価及び外部評価結果(さくら)

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0170502199), 法人名 (北海ケアサービス株式会社), 事業所名 (グループホーム 北海ハウス(さくら)), 所在地 (札幌市白石区北郷7条3丁目8番12号), 自己評価作成日 (平成29年9月30日), 評価結果市町村受理日 (平成29年11月29日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営理念である「笑顔で 明るく やさしく」を毎朝唱和し、笑顔を心がけています。今の生活環境と変わらない家庭的な雰囲気大切に、一人ひとりが持っている力を十分に発揮できるように家事仕事などをスタッフと一緒に、お互いに助け合い、時には入居者様より学ぶ事もあり職員も感謝しながら生活しています。スタッフも家族同様、一人ひとりに心を通わせながら、家庭で生活するような安らぎのある「お家」を日々目指しながら実践しています。毎日の食事では新鮮で豊富な食材を使い、一日の栄養を取りながら美味しく頂き、入居者様からは「今日も美味しかった、有難う」と言う声毎日聞こえてきます。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2017_02_2_kihon=true&JigyosyoCd=0170502199-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (平成29年11月10日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

代表者は福祉に関心を持ち、多数の福祉関連事業を展開している。最初のグループホームとして、鉄筋コンクリート造り3階建て3ユニットを開設して14年が経過している。バス停から近く、周囲は小・中学校、コンビニ、飲食店、住宅等が立ち並んでいる。代表者が町内会の役員を担っており、地域とは相互の行事等で行き来する機会がある。保育園児が毎年定期的に訪れ、カルタや折り紙などを一緒に楽しんでいる。食事は、利用者の食の楽しみに繋がるように30品目の食材を採り入れ、好物や栄養バランス、彩り、食事形態に配慮した食事作りが行われている。高齢化に伴い利用者全員での外出は難しいが、その分居室や居間で利用者へ寄り添う時間を大切にしている。また、利用者の持てる力が発揮出来る場面に努め、日課として利用者は食器拭きや洗濯物たたみ、雑巾縫いにいそんでいる。職員会議の議事録や介護関連の記録から、利用者を中心とした運営作りが窺える。職員は自分や親に置き換え、利用者の心身に寄り添うケアに取り組んでいる事業所である。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff performance.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	今迄の生活環境と変わらない家庭的な雰囲気大切にその人の人生の歴史を重んじ、スタッフ一人ひとりが、入居者の家族同様に理念を共有したホームづくりに向けて各職員が努力している。	「笑顔で明るくやさしく」をキーワードとした運営理念を共有し、唱和してから業務に臨んでいる。具体的な内容も表記しており、職員の意識付けを図ると共に会議等で理念の実践を確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	近所の保育園児との交流や町内会行事に参加したり、年に一度の七夕の日には子供達にお菓子を渡したりと交流している。	保育園児が定期的に訪れ、利用者はカルタや折り紙などを楽しんでいる。町内会の祭りでは子供神輿が立ち寄り、利用者はさい銭を用意したり、祭り見物に出かけている。代表者は町内会役員を担うなど地域の一人として活動している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、町内会の方・ご家族に向けて地域包括支援センターの職員様と共に現在の高齢化社会について勉強会及び、講話などを通し理解を深めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて、ホームでの取り組みや利用者様の近況報告、防災訓練等に参加して頂きホームでの実践に活かしている。	会議は、運営状況を報告後にメンバーの地域住民から近所の高齢者の実態報告や町内会行事の案内があったり、包括職員からは介護関連の情報が得られ運営に反映している。家族の参加要請は継続して行う事としている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月の報告やアンケートの回答等適宜に連携をとり、区の生活保護担当職員とは都度情報を伝え、協力している。	行政とは市や区の管理者会議への出席や事故報告等の提出書類、介護認定更新時、実地指導や集団指導、ケースワーカー来訪時等で関わりがある。得られた情報や意見を運営に生かしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ユニットには、身体拘束マニュアルを掲示し理解を深め、玄関の施錠については、外部から不審者が入って来られない様にしているが、中からは利用者自ら開錠し外にでかけられるようにしている。	マニュアルや各種研修、勉強会等で身体拘束にあたる具体的な行為や、その弊害について理解に努めている。玄関の施錠促しなど行政の指導も踏まえ、会議等で身体拘束をしないケアの実践を確認している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者及び、職員は年に1回以上高齢者虐待防止法の研修会に参加し、そこで学んだ事を会議の場で勉強会として、話し合い虐待防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修会に参加し、現状の制度を学んでいるが、現状では活用したい方がおられない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、相手の方の立場でわかり易い言葉で説明し不安な事や疑問点等を確認しやすい様に導き理解・納得して頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様とは、日常生活の中から意見・要望をお聞きし、御家族様とは、来訪時に意見交換を行い運営に協力して頂いている。	家族には、利用者の様子をユニット便りや来訪時、電話で報告をしている。利用者や家族からの意見は殆ど無いが、課題が生じた時は職員間で解決に向けた検討が行われている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者とは2ヶ月に一度運営会議を行い、職員の意見要望等を伝えている。	代表者や法人職員とは情報を共有しており、相談できる環境にある。ホーム長や各ユニットリーダーは、運営や就業環境における職員の意向や提案を傾聴し、さらに法人会議に於いても職員の満足度に繋がる検討が行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員は各々自己評価を行い、目標及び、要望等を掲げ代表者に提出している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のスキルに応じた外部研修を受ける機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域管理者会にて、ネットワークづくりや勉強会を通じて交流している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境が変わったという事で不安な状態である事を特に意識し、声掛けを頻回に行い要望等を聞き出し、本人との関係を築けるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	来訪時には、本人の様子を伝えながら御家族の要望を伺い、関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時の情報及び、その時の状態を含めながら、出来る事、出来ない事を見極め支援している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、介護される立場に立って本人の訴え等を傾聴しながら支援している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆を大切にし連絡を密に取りながら共に本人を支えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	開設当初から利用している訪問理美容の方や親類縁者等の馴染みの人には関係が途切れない様に支援している。	面会に訪れる方々を歓待し、寛げる環境作りに努めている。利用者の馴染みの店での買い物や利用以前の居住地への訪れ、ドライブで自宅付近を通ったり、外出行事として動物園を訪れている。美容室や孫の結婚式、墓参りなどは家族の協力を仰いでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	午前・午後と皆で集まる時間を設け、会話を楽しめる様に支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後は必要に応じ、相談・支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの要望をお聞きし、上手く言葉で表出できない方にも意に沿えるように努めている。	利用者や家族が要望を表すことは少ないが、日々の関わりや生活歴、個別の記録、職員の気づき等で推し量っている。内容によってはケアプランに載せ、利用者が安心して暮らせるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に得た情報や、入居されてからの会話の中からくみ取り今迄の生活を継続できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	温度板や介護記録を活用し、一人ひとりの生活リズムの把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・ご家族のお話を聞き、都度話し合いながら介護計画の見直しを行っている。	ケアプランは、6ヵ月毎の定期見直しや状態変化時には新たに作成している。利用者や家族の意向を踏まえ、医療関係者の所見や介護関係書類を参考に職員全員で検討している。ケアプランの実践は、介護記録で確認できる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や介護支援経過に記録し、日々の情報の共有化をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに応じたサービスができる様に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域での行事に参加したり、地域の保育園児と交流したり楽しい時間を過ごしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隔週に来られる往診医には、状態を報告したり本人自ら相談したりと関係を深めている。	従来の主治医への受診は家族対応だが、緊急時は職員が同行している。協力医(内科、歯科)の往診態勢の整備や、看護職員による健康チェックが行われており、情報は関係者と共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員と協働しながら、日々の健康管理を行い適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際は、ADL等の情報を提供し早期に退院し受け入れられるように相談や情報交換を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化しつつあるときは、早い段階で御家族と医師とカンファレンスを行い説明し、支援している。	入居時に重度化に向けた指針を基に、出来る事、出来ない事を説明し同意を得ている。最大限の支援に努めているが、重篤時は医療機関や他の福祉施設での支援となっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時・事故のマニュアルを備え、全職員が実践できるように努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の協力を得て、避難訓練を行なっている。	年1回消防署や地域住民の協力を得て、夜間想定での避難訓練を実施している。さらに、2か月毎に夜間想定訓練やマニュアルを活用した机上訓練を行い、非常時に備えている。	地震や断水、停電を含む自然災害を想定しての実践的訓練や、避難場所の再確認と家族への周知、災害備蓄品の充実に向けた取り組みに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いに気を付けて、人格やプライバシーに配慮しながら対応している。	ホーム長やユニットリーダーは、日常業務や会議等で言葉遣いなど利用者に対する接遇のあり方を説いている。個人関連の記録時はインシヤル表記し、書類も事務室で管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話や様子などから汲み取るように努め、思いを表出できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい暮らしができる様、個々のペースを大切に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	場所・季節にあった身だしなみに気を付けるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しめる様に、献立を考えながら提供し、片付けも出来る方が手伝っている。	各ユニットは、利用者の要望と栄養バランスに配慮した献立を作成し、利用者と一緒に一連の食事作業を行っている。行事食や出前、外食を取り入れ、食の楽しみに繋げている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量を把握し、その日の状態に応じ提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前の洗口や、毎食後の口腔ケアの声掛けや見守りを行い、支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレで排泄出来る様に支援している。	自力でトイレを使用したりポータブルトイレを利用する方もいるが、殆どは排泄チェック表を参考に早めに声かけをし、トイレへ誘導して失敗の軽減に努めている。支援により、布下着の着用が可能になった事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘をしないように、食べ物・飲み物に気を付け予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日を決めずに、その人の体調に合わせて何時でも入浴が出来る様に支援している。	入浴は同性介助に配慮し、午後から週2回を基本としている。状態によってはシャワー浴もあるが、入浴剤の香りを楽しむなどリラックスした状態の中から利用者の意向が聞かれ、ケアプランに反映する事もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間安眠できるように、日中の休息時間を大事にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬状態を熟知し、症状の変化があった時には、医師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合わせた役割を持っていただき、気分転換にはゲームや散歩に行ったりと楽しみ事を支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的には外出は出来ていないが、今後は本人の希望に沿えるように外出の機会を増やしていきたい。	高齢化に伴い状態変化もあり外出の希望は殆ど無いが、散歩や買い物に加え、デイケアやデイサービスに通ったり、受診帰りの食事や、行事として動物園を訪れている。屋上からの景色や庭のサクランボを眺め、気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している方も居られるが、欲しいものは、いつでも買えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の方とお話したいときは、何時でも電話を出来る様に支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の場所はゆったりと過ごせる様にテーブルや椅子の配置に気を付け、室温調整や刺激となることに気を付けている。	24時間換気システムにより、安定した温度が保たれている。共用空間はゆったりとした設えで、採光や清掃、温度にも配慮がある。絵画や季節に因んだ飾り物等が彩りを添えている。居間のコーナーにはお茶セットが備えており、寛げる環境になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思いおもいに過ごせる様にソファを置いたり、気の合った同志と一緒にいられるように居場所を作っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの物を持ってきてもらい生活している。	7畳ある居間は、入口に自分の部屋と認識出来るよう、趣味の小物類が入っているメモリアルボックスを設置している。家具や仏壇、テレビ、写真などが持ち込まれ、動線に配慮して配置し安心安全な居室作りになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所の表示をし、迷わず・混乱しないよう配慮して安全に暮らせる様に工夫している。		